

ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
小田桐 ジェイク

教育の責任

私が担当してゐる授業と云ふのは、幅の広いもので、一口で云ひ切りませんが、主に文学と文化を教へてゐると云つていゝでせう。下記の表に担当してゐる授業の一覧があるので、ご関心あれば、どうぞ。

科目名	対象 学年	受講 人数*	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
国際文化と社会・異文化理解	2-4	50	講義	選択	グローバルコミュニケーション
専門演習ゼミ 1	3	5	演習	選択	グローバルコミュニケーション
Humanities II	1-4	10	講義	選択	グローバルコミュニケーション
日本語リテラシーA	1	30	講・演	必修	入門
文化の考え方(文学)	1	10	講・演	選択	総合教養
国際社会と文化・異文化理解	2-4	50	講義	選択	グローバルコミュニケーション
専門演習ゼミ 2	3	5	演習	選択	グローバルコミュニケーション
プレゼンテーション	2-4	15	講・演	選択	共通
日本語リテラシーB	1	30	講・演	必修	入門
特論 II	2-4	5	講・演	選択	グローバルコミュニケーション

教育の理念

ます / \ グローバル化されてゐる現在に生き残るための必要な知識を見つけていることが最も大事なところになる。メディアを読み解ける能力、文章を読み解ける能力、客観的な思考力、抽象的な思考力。将来を考へつゝ、過去をしつかりと学び、現在を意識することが私の教育の核心になつてゐると云つていゝ。

また、しつかりと目標を持ち、適切にその目標を見直し、必要に応じては調整することも非常に重要な、現在の社会としての能力になるので、私の授業でさうしたことを身につけることができるための教養を与へたい。

しかし、いはゞ「受身勉強」は、もう、過去のもので、今は積極性が最も重要で、積極的に授業意外の場で、授業で勉強したことを学ぼうとする学生が理想である。すなはち、授業で学べることはあくまでほんたうの教養の一部であり、実際に「学ぶ」ことは授業以外に発見する、授業で学べた、更に考へを広げる時である。

最後に、「〇〇とは何か」といふ根本的な問いを常に持ち、新しい物事を体験したい、学習したい、成長したいといふ精神を有することが非常に重要な一点である。これは、自分は、学べるのがまだ多いといふ意識につながってくるはずである。

教育の方法

授業で学べることは、あくまで実際に学べることの一部であるため、私は教室で教へる内容は道の歩み方を紹介してあるだけである。実際にその道を踏み込むのは学生の責任で、授業で学んだことを応用することで、無事に人生の道を歩めるやうになるはずだから、私はこの教育の方法を大切にしている。

世の中には解釈しなければならないことが多いので、抽象的な思考力、また客観的な思考力を身につけることにより、迷ふことがあれば、その場で立ち止まり、周囲を見直し、直面してある問題をじっくり考へ直すことが重要な能力及び技術になる。私はその道具を紹介することが、教育者としての宿命の一つであらう。

しかし、重要なのは、この方法はいはゆる「スパルタ式」である。所詮は、手をつないで道と一緒に歩む教育ではない。先述したやうに、私は道を歩むための基礎的な知識を与へ、学生は積極的に、自分の力で、私が与へた知識をヒントにしながらか、進んでいくことになるはずである。

今後の目標

私は常によりよい授業を提供してゆきたいので、毎回々々学生に書いてもらつてあるリアクションフォームを丁寧に読み、必要に応じて、授業を改善することを心がけてある。しかし、全員を幸せにすることができないので、たまに、置いておくことが重要になる。とはいへ、それをいつか、また別の時期になると使へるといふことで、その意見や提案等を完全に無視してあるといふわけではない。